

☆放課後子ども教室☆

新しい年が始まりました。年末年始の空模様のように、穏やかな一年となることを願います。放課後子ども教室は1月21日（水）から3学期の活動が始まりました。約2か月と短い時間だからこそ、大切に過ごしていこうと思います。

昨年末、放課後子ども教室では冬休み特別教室として、町の環境保全林でも森あそびや間伐体験、地元の木工場（大浦木工場）への見学、厚真の木を使ったマグネット制作などを行いました。『木は旅をする』をテーマに、森で生きている自然の中にある木が伐られたあと、どのようにして木材へと変わっていき、私たちの暮らしに使われていくのか。その過程を実際に森の中で遊びながら木に触れ、加工をする職人さんの話を聞き、自然の素材を使ったモノづくりを通して、木と自分の暮らしとの結びつきを体感する活動となりました。森遊びでは、積雪がなく雪遊びはできなかったものの、その分、森の奥の方まで探検にでかけることができました。枝を拾い集めて秘密基地づくりを楽しむ子や、大きなヤマブドウのつるにつかまってターザンロープをして遊んだり、自分の背の何倍も高い木に登ったり、子どもたちは自分がやりたいことを自由に選んで遊んでいました。おやつにと差し入れていただいたのはなんとシカ肉。「初めて食べたけど、美味しい！」と売れ行き好調で、あっという間にお皿は空っぽになりました。木工場の見学では、丸太を切る大きな電動のこぎりに目を丸くしたり、おがくずの山に飛び込んでみたり、普段の生活の中では出会えない物事に会うことができました。削りたてのおがくずに鼻を近づけると木の良い匂いがします。今回の活動では全体を通して、ただ見るだけではなく、自分の手で触ったり、匂いを嗅いだりと五感を使う場面が多く見られました。こうしていろんな感覚を使うことでより記憶に残る体験になったと感じています。枯損木などの伐り出しでは仲間とコミュニケーションを取りながら体を動かし、木工の時間は創造力を働かせ、道具の安全な扱い方を考えながら自分のイメージを形にする時間を過ごしました。活動を終えた子どもたちからは「森には遊ぶところがたくさんあって楽しかった」「木が旅をするところを見ることができて良かった」などの感想があり、身近な自然で遊ぶ面白さや、地域の産業の一つである林業について興味・関心を持ってもらう機会になればと思います。木工場の大浦さん、厚真町役場の職員の方、地域おこし協力隊（林業支援員）の方、町内外からお手伝いいただいたボランティアスタッフのみなさんのご協力に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後、通常の活動でも学校林などを活用しながら、森遊びの面白さを伝えていきたいと思っています。

